



三重県保健環境研究所

みえ保環研ニュース

私たちは、皆様の健康で安全な暮らしを科学でサポートしています。

第 85 号(2022 年 6 月)

～伊勢湾に生息する底生生物について～

はじめに

伊勢湾は、三重県と愛知県に囲まれ、外海との海水交換が少なく閉鎖的であるため、汚染が進行しやすい海域です。伊勢湾内の環境を改善するために調査が行われており、水質だけではなく、海底の泥（底質）や生物の調査も行われています。今回は伊勢湾に生息する底生生物と生息環境について紹介します。

底生生物について

伊勢湾には、タイやイワシなどの魚だけではなく様々な生物が生息しています。

その中でも、アサリやシジミといった二枚貝など海底に生息する生物のことを底生生物と呼びます。底生生物は水中のプランクトンや有機物を食べることで海を浄化してくれています。



図 1 オカメブンプク（底生生物の一種）

図 1 に示したウニの仲間のオカメブンプクという底生生物は、海底を動き回ることによって堆積物を攪拌し、海底の汚れを掻き出してくれています。

このように、底生生物は伊勢湾の環境改善に様々な役割を担っています。

底生生物が生息する環境について

伊勢湾に生息する底生生物は人間と同様に酸素が必要不可欠です。海底付近の酸素が不足している地点では、生息環境が悪化し、底生生物が少ない状態になってしまいます。酸素が不足している状態は夏季に起こりやすいですが、その状態が秋まで継続していることがこれまでの調査でわかってきました。

具体的にどの場所で底生生物が少なくなっているのか、過去の調査で得られた底生生物の結果から調べてみました。地点は図 2 に示した四日市港沖 (A)、白子港沖 (B)、津松阪港沖 (C) の 3 地点です。



図 2 伊勢湾の底生生物調査地点

調査結果

2007年から2019年の夏季に調査をした伊勢湾の底生生物の結果から、底生生物の0.1m²あたりの個体数の推移を図3に示します。

調査結果から地点Cでは他の2地点と比較して生物の個体数が少ないことがわかります。

次に図4に示した2017年の夏季における底層の酸素濃度から、地点AとBでは4mg/L前後であるのに対して、地点Cでは2mg/L以下であることがわかります。底質の酸素濃度の低下は、底生生物の個体数が減少する原因の一つとして挙げられます。

これらのことから、地点Cでは、底層の酸素が不足しているため、底生生物の生息環境として適していないことが考えられます。

今後の取り組み

今回は底層の酸素不足が底生生物に及ぼす影響についての例を挙げましたが、伊勢湾内の生物の生息環境の悪化は干潟・藻場の減少や気候変動など様々な要因が考えられます。

当所では、伊勢湾を定期的に調査し、データを蓄積しています。これらのデータを活用して、伊勢湾の環境改善のために役立てていきます。

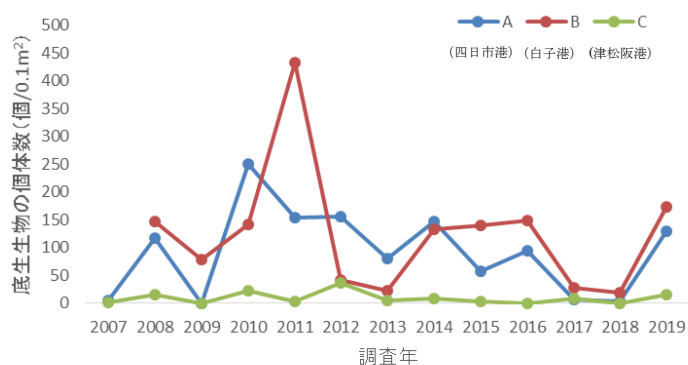


図3 伊勢湾の夏季の底生生物の個体数の推移
引用元：環境省広域総合水質調査

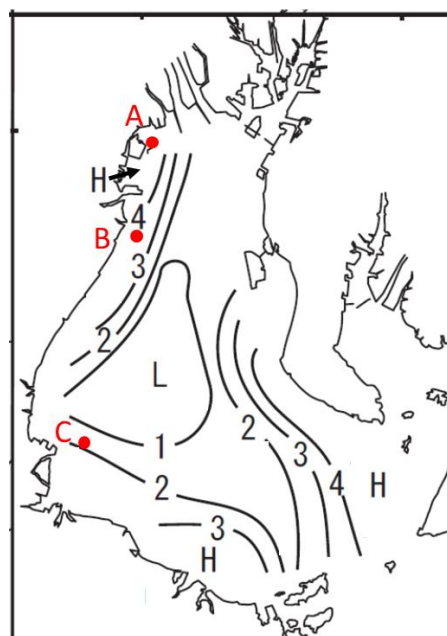


図4 伊勢湾の底層の酸素濃度 (mg/L)
(L：底層の酸素濃度が1以下の区域
H：底層の酸素濃度が4以上の区域)

引用元：三重県水産研究所 浅海定線観測
調査時期：2017年8月

—編集委員会から—

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

三重県保健環境研究所

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11

E-メールアドレス hokan@pref.mie.lg.jp ホームページ

三重県感染症情報センターホームページ

TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

<https://www.pref.mie.lg.jp/hokan/hp/index.htm>

<https://www.kenkou.pref.mie.jp/>